

正田洋一

市議会レポート

第 10 号

ひろしまりんくう リレーマラソンへ参加

三月二十日、ひろしまりんくうリレーマラソンに参加しました。日頃のランニングの成果とストレス解消のためです。三原市には、トライアスロンさぎしま&一〇〇キロウォーク・大和のふれあいグリーンマラソン&トレイルランなどたくさんラン&ウォークイベント



トがあります。この種のイベントに参加するのが好きです。低コストで多くの集客ができるイベントで街おこしとして注目しています。また、市内外から多くの方が参加されており、いいイベントだと思えますし、いつもの仲間とも絆が深まった気がします。

さぎ一〇〇へ参加

ちよっと前のイベントになります。今年、大和



三原市議会議員
正田洋一

“未来を考える”

“地域をもっと元気にする!”

のふれあいグリーンマラソンと同日で毎年参加のグリーンマラソンを残念ながら辞退し参加しました。一〇〇キロというとても長い距離で、自分の限界に挑戦しました。最初は仲間と歩いていたのですが、徐々に距離が離れ、真暗の中一人で歩きながら、島の人の温かさに涙ができました。参加する事に意義があると思います。五十キロあるいてやめるつもりでしたが、あと一周、あと一周と思いつつ歩きました。残念ながら九十二キロでタイムアップ。最後のリタイア者になりました。来年は一〇〇キロ歩きます。



桜山でお花見会実施

今年も桜山の花見会を実施しました。今年も満開の桜を堪能しつつ、ふるまいの豚汁、ポップコーン、綿菓子などのブースを若手有志でやりました。多くの方に来ていただき大変嬉しかったです。桜山は、三原城跡を上から望むポイントがあ

ご挨拶

実は、久しぶりの発行になります。少々お休みしておりましたが、日々の活動および三月議会の模様についてお伝えします。

また、私が取り組んできた課題について、多少の進展もしくは変化がありましたのでその付近にも言及していきます。

り、また、三原要塞といわれた山城の跡もあり、築城四五〇年事業においては、散歩コースになり得るのではないかと考えています。大事に育てていただける仲間と共に大切にしたいと思っています。



防災士講師デビュー

地元本町地区の防災勉強会で講師デビューをさせていただきました。土砂災害時における備えについて、五つのポイントについて説明しました。まだまだ専門的知識が深いわけではありませんが、平たくわかりやすく帰ってすぐ取り組めるよう心がけて説明しました。今後、三原市防災士ネットワークの会員として活動にみなさん取り組みたいなかつたので今後は地元以外でも挑戦したいと思っています。



平成二十八年第一回 定例会報告

総括質問

三月議会は、一般質問ではなく総括質問です。会派を代表して質問にたちました。

人口減少対策について

空き家対策は人口獲得と経済活性化の手段

課題認識

空き家の特措法成立後、三原市としても空き家調査は始まっておりますが、スピード感がない。今年度調査して、来年度計画して、再来年度実行する。このようなスピードでは都市間競争に負ける。今回は前回同様、土地の流動化を推進し、定住促進に生かすことについて質問しました。

質問

国勢調査によれば、十年で八千人の人口が減少している。施政方針のなかで働く場づくりの挑戦として、企業の新規誘致の奨励金等の施策があるが、個人に対する支援は少ないと感じる。他市からの移住に対し、市独自の対策を講じ、他市との差別化を図るべきではないか。具体的には、危険空き家を特措法にのっとり管理・整理を行うのは、当然の対策として、その先のまちづくりにつながる、土地の流動化につながる攻めの空き家整理を推進して、住んでもらえる街づくりについて施策をおこなうべきではないか。

回答

新たな空き家活用の検討事業として、空き家を活用したシェアハウスの調査研究を行う計画である。また、空き家バンク制度の従来から充実を図ると同時に、市外からの通勤者に対し、市内に転入した場合の引越し費用の一部助成や、市内で初めて取得する住宅購入費を一部助成などの事業も検討する。

再質問

それでは遅い。既に三原駅周辺、本郷駅周辺の調査は終了している。受け身ではなく、攻めの体制で進めていくべきではないか。三原市の人口を増やすという意味では、三原駅周辺、本郷駅周辺が比較的人口の獲得ができる地域でもある。

回答

空き家対策から土地の流動化については、今ここで答えを持つていないが、研究を進めて行く。人口が獲得できる場所という認識は持っている。

総括

空き家対策特措法は、空き家の適正管理を目的にしておりますが、その裏に不要な空き家の撤去を促進して、新たな投資を促す意図があると理解しています。特に人口問題を考えるとき、中心市街地は、人口獲得のためには最適な場所であり、今後もこの付近の課題を追いかけていきます。

築城四五〇年事業、市民の皆様は何をお願いする

課題認識

築城四五〇年事業について、目的が何で、誰に何を提供するのか？また、市民の皆様は何をお願いするのか？市長の口から語ってほしいのです。

質問

築城四五〇年事業について、二月の神明市からプレ期間が始まり、一部に気運の高まりを感じる。しかし、市長に聞きたいのは、実際に市民の皆様は何を求めているのかわからない。市民の皆様は具体的に何を願っているのか。

例えば、全市民全三原のセールスマンであるとか、主体的事業の提案者は市民の方に広く提案していただけるよう環境整備と周知を徹底するとか。気運を盛り上げるべきだ。その付近について聞く。

回答

事業の目的は、観光のまち三原の実現である。まち作りは、地域が主体となって、歴史、食、眺望、人材などの地域資源を生かすことにより、交流を活性化し、活力のあるまちを実現すると捉えている。その第一ステップとして、地域の魅力の掘り起こしである。市民の皆様へは、県外、市外から尋ねられたときは、三



原の魅力伝えられる市民になっていただきたいと考えている。引き続き情報誌「浮々城々」を発行するとともに市民向けのガイドブックを紙および電子媒体で作成を検討する。

再質問

市民の皆様は三原にブランドの意識をもって貰うのは、トップがわかりやすく説明することだと思いませんか。

回答

築城四五〇年事業は、三原を市外・県外にPRする大きなチャンスと捉えている。小早川隆景公のつながり、福山を中心とした連携中枢都市圏との連携、尾道、竹原、世羅などと組んで取り組んで行きたい。また、外国人観光客の取り込みについてもできると思っている。

総括

残念ながら私の聞きたい市民の皆様をお願いするべき事は、まだ、市長には整理できていないようですが、個別の材料はたくさんあるようでした。私が言いたかったのは、まずは観光事業に取り組みむ目的は、経済効果であり、市民の皆様へは、積極的に事業に関与していただくようにお願いしたいということです。

中心市街地活性化 歴史館には反対

課題認識

中心市街地活性化にとって、観光より市民の生活が先だと考えます。駅前西館につくる歴史館について、反対の意見を述べ、買い物困難者への対応について聞くのです。

質問

中心市街地活性化について聞く。駅前西館一階の歴史館には反対だ。前回(十二月)の一般質問でも述べたが、市民の課題は何なのか。歴史館ではなく、買い物困難者への対応だ。

住民生活よりも観光客の受け入れが先というのは順番が違う。どう考えるのか。

回答

三原駅周辺の高齢者、佐木島住民が必要なのは十分認識している。西館一階の歴史館については、あくまで暫定利用であり、築城四五〇年事業の終了後に、食品系販売事業者の動向や公共施設マネジメントの中で検討していく。



重ねて言うが、買い物困難者への対応は、市としても重要な課題と捉えており最優先で検討する。

総括

私は、歴史館については、築城四五〇年事業において、悪いわけじゃありませんが、西館一階じゃなくてもよいと考えています。住民生活よりも観光客の受け入れが先というのは順番が違う。この考え方を今後もぶつけます。

水道事業は値上げしないでもいけるの？

課題認識

水道事業は、すでに財政運営がもたせません。それは、経営の失敗ではなく、社会情勢の変化。広い市域を整備しなければならなかったための借入金、老朽化施設の整備、人口減少や節水意識の向上で収入が大きく下がるなかで、実はもう値上げしか方法がみつかりません。しかし、来年に選挙を控え誰も言いません。既に三年前から値上げの検討がされており、議会にも何度も説明がありましたが、このまま来年四月以降までみんな無視するつもりです。その付近を聞くものです。値上げが遅ければ、値上がり幅は大きくなります。なお周辺自治体と比べると三原市の水道料金は安い方です。こういうことは説明をしてきちんとすることが誠実な態度だと思います。

質問

水道会計について聞く。借入金、老朽化施設、人口減少問題などで、水道会計は、難しい状況だ、この付近の今後の見通しについて見解を聞く。

回答

三原市は、水道事業の施設を整備してきましたが、その更新が迫っている。また、人口減少・節水機器の普及により収入は、過去五年間で一・二%ずつ減少しており、水道事業の取り巻く環境は厳しい。会計の見通しについては、ただちに経営危機におちいることはない。しかし、現状のままでは施設の更新の財源が困難



な状況であり、将来にわたって安心・安全なおいしい水を提供していくために不安はある。

再質問

値上げはないと考えて良いか。

回答

総合的に判断する。

総括

水道料金は早期に値上げをお願いしなくてはならない経営状態であり、それを早く明らかにして説明責任を果たすべきだと言いたかったのですが、難しかったようです。選挙がおわったら値上げする。それまでは言わない。そういう対応ではいけないと思います。

一方で、簡易水道との統合を控えており、引き続き整備について、国の財源を使えるように国会への要望活動を行う予定です。

久井の民俗資料館を今何で整備？

課題認識

新年度予算には久井の歴史民俗資料館・公民館の整備予算が計上されています。必要なものは整備するべきなのですが、なぜ、大きな公共施設を整備するのか聞きます。

質問

久井の公民館、民俗資料館を整備する予算がある。現在、公共施設マネジメントで既存施設の整理統合をする予定であるのに、その結果が出る前になぜ大きな整備計画がでるのか。その整合性について説明を求める。

回答

学校統廃合による跡地活用として、地元の意向を踏まえた活用である。指摘の久井の民俗資料館は、新市建設計画の位置づけ事業であり、新年度から着手することが必要と判断した。

総括

本件については、他の議員の一般質問でも指摘があり、また、予算委員会でも質問が相次いだことから、予算としては承認しましたが、再度議員協議会等で説明し、了解をとってから予算執行すると言うことで結着しました。

■予算特別委員会

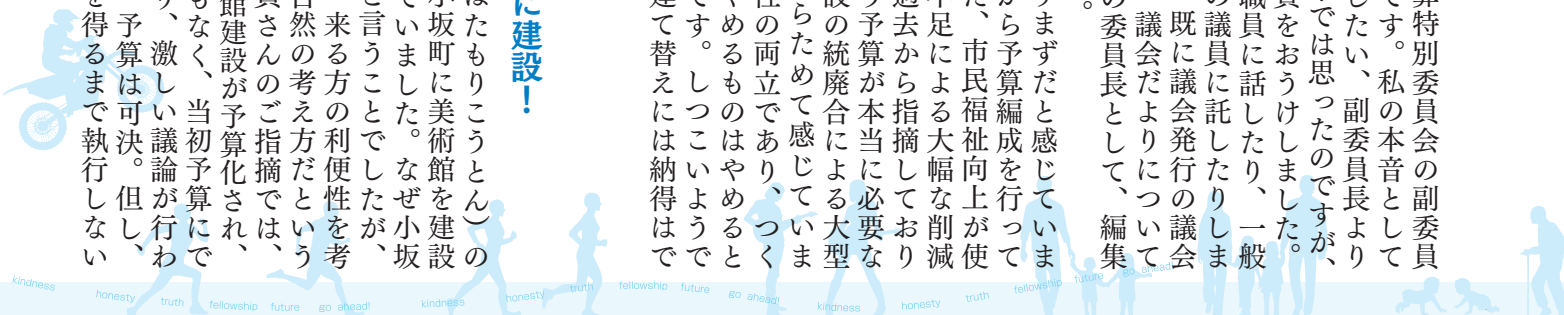
新年度予算審議では、予算特別委員会の副委員長になりました。二年連続です。私の本音としては、厳しい指摘をたくさんしたい、副委員長より委員の方がよかったと心の中では思ったのですが、そういう気持ちを抑え、重責をおうけしました。私の質問は、勉強会場で職員に話したり、一般質問の場で話したり、会派の議員に託したりしました。予算概要については、既に議会発行の議会だよりでご案内したとおり、議会だよりについて私が議会広報特別委員会の委員長として、編集しておりますので割愛します。

年度予算、私の評価はまずまずだと感じていますが、厳しい予算削減をしながら予算編成を行っており、苦心が見えます。ただ、市民福祉向上が使命でのはずの予算が、財源不足による大幅な削減を強いられた現実があり、過去から指摘しております、祭りやイベントに使う予算が本当に必要なのか？削減すべきは公共施設の統廃合による大型公共事業予算の縮減だとあらためて感じています。投資は、効率化と利便性の両立であり、つくもののはしっかりと、やめるものはやめるということです。施策も同じです。しつこいようですが、いまだに庁舎の現地建て替えには納得はできていません。

議論になった話題

秦森康屯美術館を小坂町に建設！

三原市出身の秦森康屯（はたもりこうとん）の絵の寄贈をうけ、生誕地の小坂町に美術館を建設するという予算が提案されていました。なぜ小坂なのか。それは、生誕の地と言うことでしたが、美術館をつくるのであれば、来る方の利便性を考えて、市街地に建てるのが自然の考え方だという議論になりました。ある議員さんのご指摘では、なぜ市長の地元で、急に美術館建設が予算化され、議員全員協議会などの説明もなく、当初予算にてくるのかなどの質問もあり、激しい議論が行われました。これについては、予算は可決。但し、再度議会に説明をし、承諾を得るまで執行しないということになりました。



コラム

◆携帯電話の使用に関して 議員のモラルが！

四月二十日に「大人への入門式」がありました。大人への入門式は、市内の中学一年生に対して、大人への仲間入りとして、「自覚を持ち、自分で考え、行動する力を身に付けること」を目的としたイベントです。

その際、来賓である議員が、スマートフォンで写真パチパチ。子ども達には携帯電話の持ち込みを禁止しているにも係わらず、議員のモラルが問われる場面となりました。私の経験から、前職で在籍した、NTTドコモのモバイル社会研究所では、子どもとケータイというテーマで、世界調査を行っておりました。私も、スペインのバルセロナでその研究を世界の事業者の方々に向けて、発表させていただいた経験があります。本来、携帯電話のモラルやルールを教えるのは、大人即ち親、学校の先生、地域の大人やサービスを提供する事業者等であり、我々議員も当然、教える立場なのです。議員以前に基本的、大人としての自覚が問われる場面でした。

本来、大人は、携帯電話という新しいテクノロジーをいかに有効に使うか、有害なコンテンツ等からいかに子ども達を守るかというのを教えるのが使命です。

ルールをやぶるような、低いモラルを考えなおしていただきたいと思いました。

どんな情報発信を頂くのは結構ですが、場所や子ども達に与える影響などを考えていただきたいと思いました。本件については、誰かは言いませんが、議長に申し入れて、改善いただくよう働きかけます。

また、私は、議会の広報委員長をさせていた

コラム

◆高坂自然休暇村を一億円で リニューアルすることが必要ですか？

本件について、前々回（十二月）、前々前回（九月）の一般質問で取り上げさせていただきました。経緯経過をここに書かせていただきます。

三原には三つのキャンプ場があります。高坂自然休暇村、大和の棲真寺、久井の宇根山、どれも大事な施設です。一方で、公共施設マネジメント計画の策定中で、将来の財政負担を軽減するため、キャンプ場の稼働数（必要数）を精査し、整理統合する計画です。実際、縮減もしくは良くて現状維持の方向になることが想定されます。しかしなぜ、昨年度、議員全員協議会を二回も招集し、説明し事業推進の理解を求めるのでしょうか。平成二十八年年度予算に上程する布石として着々と進められていました。また、指定管理でレストランの建設の絵が描かれているなど経営感覚で言えば無謀な計画です。市が建設し、市が補助金を支援し続ける計画になりかねません。仏通寺への誘客対応とも言われますが、仏通寺にマッチする施設で、本当に必要なのでしょうか。私は、少なくとも公共施設マネジメント結果をまっぴらと言いつつ続けました。なぜなら、現状施設のリアルとリアルとは言え、維持費は、莫大に増えるプランであり、キャンプ場は無料ですから利益無くして、行政コストを押しあげる計画であるからです。

私は二回、一般質問で本件に言及しました。二回目の本会議場では、後ろに着席の議員から「しつこいぞ！」とヤジもとんでくるほどでしたが、

二十八年年度の予算から計上が見送りとになりました。

なぜ、私の議会レポートで言及したかと言え、このケースは、無駄使いの最たる事例として、市民の皆様、記憶しておいていただきたいと思っています。また、この予算はいつ補正予算に計上され、いつ復活されるのではないかと危機感をもっているからです。問題意識をオープンにすることで安易に進めさせない抑止になると考えています。ご意見・ご指導等よろしく願います。

議員の一番の使命は、市政のチェッカーです。地元への利益誘導を優先する議員が多い中できちんと議論できる議会にならないければ、行政経営はできません。

編集後記

大変ご無沙汰の発行となりました。今後は日々の話題を含め少し、頻度を上げて発行していきたいと思います。日頃から多くのご支援いただき感謝申し上げます。

また、ご意見・ご要望・苦言等お待ちしております。「私のシンクタンクは市民の皆様」。熊本市長の「大西一史さん」と勉強会でご一緒したときにおっしゃった言葉で一番素晴らしい政治姿勢だと思いました。私もそれを見習い実践して行きたいと思えます。